

# 深い学びを実現する体育科の授業づくり

～「支える」のさらなる深化を目指して～

## 北広島町立大朝小学校

全児童生徒数	63名 (男子27名 女子36名)
全クラス数	8クラス(特別支援級2クラス)
TEL	0826-82-2027

### 1 課題と目的

本年度の研究主題は、『深い学びを実現する体育科の授業づくり～「支える」のさらなる深化を目指して～』と設定した。数年間の研究を経て「体育の授業が好き」「運動が好き」な児童が増え、9割を超えるという高位な数値となった一方で、運動技能に自信が持てず運動が苦手だという児童もいる。今年度は、運動技能に関わらず、友だちとの関わりの中で自分は認められているという受容感から生まれる「運動って楽しい」と感じる児童を増やし、その結果生涯を通じて運動に親しむ児童を育てることにつながることを目指し、長年研究してきた多様な関わり方の工夫「おもいっきりする・おたがいに見る・温かく支える・さらに知る」(通称「おおあさすみさし」)中の「温かく支える」に焦点を絞り、研究を進めてきた。

### 2 主な取組の内容

- 授業研究を軸とした取り組みの共有  
研究の柱を以下のように設定した。
  - 「温かく支える」ことが起こる課題設定の仕方
  - 「温かく支える」ことが起こる課題解決的な学習展開の在り方
  - 「温かく支える」ことが起こる対話のさせ方
  - 振り返りの中で感じた「温かく支える」のフィードバックの在り方

これらの柱を、年3回の研究授業を中心に、参観や協議を通して職員で共有した。
- 職員の実技研修
  - 夏季(ゲーム領域での運動例)
  - 冬季(器械運動領域につながる準備運動、縄跳びの運動例)

- 受容感を高める指導の先行事例研修・受容感・アンケート分析による考察

### 3 取組で工夫したところ

- 学期に1回ずつ、計3回の体育科の授業研究を行った(6年、4年、1年)。事前研修として、職員で模擬授業を行い、「温かく支える」ことが起こる課題設定や学習展開であるか検討した。
- 夏季は事前に実技内容について職員にアンケートを取り、指導に不安を感じる領域での実技研修を県教育委員会へお願いした。実技研修を通して、職員自身が体を動かしながら学ぶことで、運動を導入するタイミングや用具の工夫等について具体的にイメージし、授業に取り入れることができた。
- 安田短期女子大学の講師と連携し、受容感を高める先行事例研修について紹介していただいた。今年度の授業研究では、OPP(ワンページポートフォリオ)やフィードバックの在り方を主に取り入れた。また、受容感アンケートの結果を専門的な立場から分析していただき、指導助言をいただいた。

### 4 成果と今後の課題

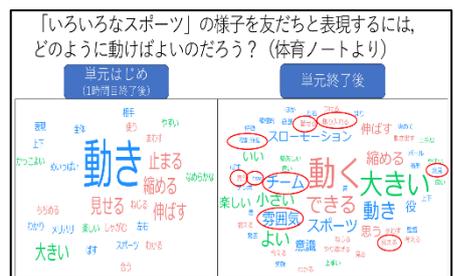
- 受容感アンケート分析で、学校全体として4項目中3項目で肯定的回答が増え、受容感が高まっていることが分かった。
- 児童が積極的に関わり合ったり話し合ったりする場面が増え、深い学びにつながっていた。
- 体育科で研究してきた「温かく支える」を他教科や学校生活にも広げていく。
- 受容感アンケートを実施する時期や検証方法について再検討していく。



6年生 体育科の表現「いろいろなスポーツ」での話し合いの場面。



職員夏季実技研修にて、実際に体験したことを日々の授業に。



「いろいろなスポーツ」の様子を友だちと表現するには、どのように動けばよいのだろうか？(体育ノートより)  
単元前と後でのOPPの児童の振り返り記述の変容を分析。